

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・ほとんどの評価項目が「おおむね達成できている」という評価だった中で、広報の充実については「十分達成できている」という評価であった。他の項目でもそれぞれの具体的取組みについて精査し、充実させていきたい。 ・キャリア教育に関しては、卒業学年の進路決定率が100%を達成できなかった。また、進路指導体制が十分に確立できなかった。次年度は、卒業学年に早期段階で進路希望を明確にさせるとともに、進路指導体制の充実を図りたい。 ・地域連携においては充実した取組みが増えた。情報発信、広報の効果もかなり上がっており、全国募集2年目に向けてさらに地域を巻き込んだ取組みを行いたい。 ・実地活動、環境整備など生徒を主体とした取組みが浸透してきた。次年度はSAGA2024国民スポーツ大会も開催される。さらに生徒が主体的・積極的に関わる取組みを増やしていきたい。
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	・北部地区唯一の総合学科高校として、多様性を生かすとともに、その特徴を磨き上げ、県内外から生徒を呼び込む魅力的な学びを実施する。 ・デジタルを活用し、実証的・クリエイティブな人材や、国際感覚豊かな人材を育成するとともに、東松島の資源を活用した地域との協働を通して、地域社会に貢献する人材を育成する。
----------------------------	--

	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
3 スクール・ポリシー	・自己と真摯に向き合って将来を考え、進路実現に向け努力を遂げる生徒。 ・総合学習の学習に興味を持ち、自己の能力を高め、専門的な知識や技能の習得に努めようとする意欲を持った生徒。	・「産業社会と人間」等を通して個々のキャリア発達を促すための系統的なキャリア教育を実施します。 ・「進性や進路に応じて、多様な学びができるような教育課程を設定します。」 ・少人数制編成や少人数指導、学び直し等を通して個に応じたきめ細やかな指導・支援を実施します。 ・学習、行事、生徒会活動、部活動等において地域と連携・協働した体験活動・探究活動に取り組みます。 ・デジタルを活用した最先端の学び、交流、体験に取り組みます。 ・多様な視点を取り入れるための国際交流や全国からの生徒募集を推進します。	・以下のような資質・能力を育成します。 ・態度・価値観(学習観、自己理解、社会・文化理解、ライフデザイン、自己管理力) ・知識・技能(基礎学力、専門的知識・技能) ・スキル(コミュニケーション力、コラボレーション力、プレゼンテーション力、課題発見・解決力)

4 本年度の重点目標	(1) 探究学習、地域連携の推進 (2) 生徒の多様な進路への対応(特に大学進学への対応) (3) 広報の充実
------------	---

重点取組内容・成果指標				中間評価	最終評価	主な担当者				
(1)共通評価項目										
重点取組										
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	学校関係者評価
●学力の向上	○基礎学力向上に向けた、学習習慣定着のための指導 ○きめ細やかな学習指導の実施	○朝の青箱タイム(学び直しの時間)を継続的に行うなかで、基礎的な学力の定着を目指す ★学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えたとする生徒数を25%以上にする。	・青箱タイムが始まる前に職員が事前に教室に行き、8時30分より落着いた雰囲気の中で青箱タイムを行う。 ・各学年で、少数人数の編成や人数指導、学び直し等を通して個に合わせたきめ細やかな指導・支援を実施。 ・情報1などコンピュータを利用する授業では授業の導入でタイピング練習を兼ねる。 ・ICT機器の活用方法を職員に周知し、利用している職員で意見交換等も行う。	B	青箱タイムは各学年で生徒の現状に合わせた課題を準備し、実施できている。授業では少数人数や青箱タイム・ペアリングを行い、きめ細やかな指導を引き続き実施する。	B	青箱タイムの時間に学年ごとに継続した指導ができた。少人数指導やペアリング・タイピングなどの指導だけでなく(小テストや学習取り直し)などにもきめ細やかな指導が行った。(数値目標結果:3年生83%2年生60%、1年生59%)	B	・楽しいだけでなくその上資格取得ができるような取組があるとよい。	教務
	○ICT活用教育の実施	○社会に貢献する人材の基礎となる能力の育成のため、1年次生の80%以上が全館ビジネス実務検定3級相当の能力を身に付ける。 ○授業の効率化や生徒への多角的支援に向け、ICTを活用して授業を実施している教員を70%以上にする。			B	情報1の授業ではチームペアリングで丁寧にタイピングの指導ができた。ICT機器の活用については支援員の協力を得ながら実施できている。	B	支援員の協力を得て、ICT機器を活用して授業を実施できた。教員によって使用する時間や内容は違っている。1年生のタイピングは例年よりよくできている。(数値目標結果:教員86.5%)	B	・特になし ・ICT推進
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで豊かな心身に付ける教育活動が行われていると回答する割合を80%以上(生徒・保護者・職員でそれぞれ)にする。	・HR活動では、本校の生徒に理解しやすい内容の講話を行い、感想を書き時間を取り入れる。 ・事前学習ができる限り行う。 ・日々の授業や会合の中でも、生徒に豊かな心身に付けるための情報を発信する。	B	生徒の実情や多様性を考慮した様々な講話を行うことができた。講話の後ではできるだけ早急感想を書き時間を確保し、ふり返りの時間としている。	B	講話を依頼する際に生徒の現状を伝えたり、事前指導を行ってメモを準備することにより、理解を深めることができた。(数値目標結果:生徒58.2%・保護者81.1%・職員73.0%)	B	・地域と連携した取組は素晴らしい。保護者も参加できるとさらに良いと思う。	教務(道徳教育等)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見・早期対応に努めていると回答した教員を90%以上にする。	○いじめの早期発見・早期対応に努めていると回答した教員を90%以上にする。	B	いじめが発生した場合は、学年間、管理職と情報共有を速やかにを行い、対応し、SNSを利用したいじめが多数発生した。SNSの活用の方をより強く指導したい。	B	学年間や管理職との情報共有を速やかにを行い、いじめの拡大防止や未然防止に努めた。アンケートの活用や生徒への聞き取りなどを通して、いじめの状況を的確に把握した。(数値目標結果:教員64%)	B	・教職員だけでなく、スクールカウンセラーを活用しながら早期対応をしていることがよい。	生徒指導部
●健康・体づくり	○自己肯定感の醸成	○自分には良いところがあると回答する生徒を65%以上にする。	・全校集会や担任等を通して、いじめ問題やSNS・ライン等の適切な利用について指導する。 ・いじめと思われる場面を発生した場合、学年主任・担任等に報告し、情報を共有し、早期に対応する。 ・広域地区での連携を強化し、公式Instagram等で生徒会役員や部活動部員の活動様子、対外試合結果等を随時アップする。 ・朝・帰りHRを活用し、生徒会が中心となって定期的に学校生活現場を提案する。楽しく通いやすい学校づくりを目指す。	B	広域部による積極的なSNS発信により、生徒会活動等への理解、また行事等への関心も深まり、本校の良さが伝わってきている。引き続き、生徒会生徒会を中心に生徒会の自己肯定感・規範意識を高められる活動にしていきたい。	B	学校生活や学習体験を通じた成長実感が反映され、学年が上がるにつれ自己肯定感が大幅に高まっている。1・2年生の低下については、今後原因を追究するとに対応を検討する。(3年生83%、2年生54%、1年生53%)	B	・アンケート項目の表現を工夫することで答えてくなくなるのではないかと、生徒の声を聞ながらサポートすることで自己肯定感があがるとののではないかと。	生徒会
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○健康に良い食事をしていて1年生を80%以上にする。	・朝食摂取状況調査及び食事内容について生徒との個人面談時期に詳しく聞き取りを行い、学校としてできることを検討したいと考え、日頃のHRでの声掛け、家庭科の授業、保護者よりや食育だより、朝・帰来メールなどを通して、食育を推進し、生徒・保護者の意識の高め、目標を達成できるようにする。	B	食と健康に関する調査を全校生徒を対象に行った。個別に詳しいアンケートを実施予定。生徒自らの食育だよりを提示。地域の方よりより減塩教育を実施。	B	朝食欠食率が高く、重要性的な話をしているがなかなか浸透していかないで、玄米やパン食を減らして、食育の推進と朝食摂取率の向上を目指して協力していきたい。すでに話し合いを進めている。(数値目標結果:生徒57%)	B	・アンケート項目の表現を工夫することで答えてくなくなるのではないかと、食育が家庭の取組で回答が貰っていたので。	保健部
●業務改善・教職員の働き方改善の推進	○納期で安心・安全な学校づくり	○校内が安心安全な環境となるよう整備点検し、荷物の持ち帰りや分別をはじめ校内環境美化や整理整頓に取り組んでいると回答する割合を80%以上にする。	・定期安全点検を隔月で実施する。 ・各クラス美化係による清掃活動や美化啓発物作成などを実施する。 ・ぜひや清掃活動(校内ボランティア活動)を新・後期各1回実施	B	定期安全点検を隔月で実施、指摘箇所は施設担当者と連携し、速やかに対応した。 ・ぜひや清掃活動を2回実施した。	B	学校評価アンケートでこみの持ち帰り、環境美化等が安定した教育環境を作っていると答えた保護者は80.6%、生徒は75.7%であった。	B	・特になし	
	●業務効率化の推進と時間外在校時間の削減	●教員委員会規則に掲げる時間外在校時間向上に取り組む	・毎週火曜日を定時退校推進日に設定する。 ・授業のOUB化の促進や特別支援教育に関する研修会の実施 ・関係者間での情報共有の場の設定	B	定時退校推進日に積極的に定時退校を呼び掛けた。 ・夏季休業中に平日に1日間、学校閉庁日を設定した。 ・特別支援教育職員研修会を6月20月に実施。	B	定時退校推進推進日に、積極的に定時退校をよかけ、時間外在校時間は昨年年度も減少した。	B	・特になし	教務
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教職員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する意識が向上していると回答する教職員を80%以上にする		B	教育者・生徒・生後支援担当を講師とした研修会では、すべての生徒が学びやすい授業づくりに向けての具体的な手立てについて学んだ。	B	教育者・生徒・生後支援担当を講師とした研修会では、すべての生徒が学びやすい授業づくりに向けての具体的な手立てについて学んだ。	B	・玄海みらい学園との職員研修等の連携した取組を考えた。	保健部(特別支援)
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	学校関係者評価
★唯一無二の誇り高い学校づくり	●SAGAコラボレーションスクールの推進 ・探究学習の推進 ・地域との連携	★自分の学校を中学生に勧めるとできる生徒の割合を75%にする。 ★教職員の割合を75%以上にする。 ★県外からの入学者数を5人以上とする。	・地域の課題に目を向けた探究活動を充実させる。 ・「産・社・校」と連携した探究学習を継続的に実施し、授業を実施する。 ・系列校同士で、中学生に勧めるとできるという点で、1年生の生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。	B	・系列、学年で地元の課題に向き合った探究活動に取組んでいることができた。 ・1・2年生では、中学生に勧めるとできるという点で、1年生の生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。	B	・総合学習発表会では、各学年系列で取り組んだ探究活動がグローバルな取組が発見され、素晴らしい活動であった。 ・中学生に勧めるとできるという点で、1年生の生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。	B	・総合学習発表会では、各学年系列で取り組んだ探究活動がグローバルな取組が発見され、素晴らしい活動であった。 ・中学生に勧めるとできるという点で、1年生の生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。	教務・主幹教諭・企画部 道徳・教務・学年・系列
	●T・SUNAGARUプロジェクトの推進 ・多様な文化に向けた教育課程の検討 ・デジタルを活用した交流等の推進 ・地域みらい留学オンライン説明会の実施	★系列の授業に挑戦する教員を100%にする。 ★「住んでいる地域の文化や住むの価値ある部分、その手からみいけたい」とする生徒を50%以上にする。 ★地域みらい留学説明会への参加者を延べ200組以上を目指す	・系列の授業に挑戦する教員を100%にする。 ・「住んでいる地域の文化や住むの価値ある部分、その手からみいけたい」とする生徒を50%以上にする。 ・地域みらい留学説明会への参加者を延べ200組以上を目指す	・多様な文化や体験・交流の場としての「バーチャル」や系列間の口遊遊技を可能とする柔軟なカリキュラムの検討に向けた全職員で検討する。 ・220月に1回、コンソーシアム会議を開催し、地域等と協働した学びの場を創出する。 ・2020年を活用した外部(地域、高校・大学等)との交流を推進する。	B	・全職員に担当系列を割り振った。 ・1・2年生では、中学生に勧めるとできるという点で、1年生の生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。	B	・総合学習発表会では、各学年系列で取り組んだ探究活動がグローバルな取組が発見され、素晴らしい活動であった。 ・中学生に勧めるとできるという点で、1年生の生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。	B	・総合学習発表会では、各学年系列で取り組んだ探究活動がグローバルな取組が発見され、素晴らしい活動であった。 ・中学生に勧めるとできるという点で、1年生の生徒は、65.4%(前年同月61.2%)、教職員が65.3%(前年同月65.1%)。
○キャリア教育・進路指導	○キャリア教育の充実による進路意識の向上 ○大学進学指導体制の構築	○1・2年生は、キャリア教育に関する授業で「働くこと」の意識について考えることができたという回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○3年生は、進路決定率を100%とする。	・キャリア教育支援事業や企業、地域等の力を活用した演習やガイダンスを実施する。 ・面接、進路検討会等様々な機会を積極的に設け、生徒の進路希望や進路意識の向上に努め、大学進学希望者まで対応した特種な個別指導等を実施する。	B	・各学年に対応した進路ガイダンス、上級学校、企業訪問が実施できた。 ・3年生の進路決定率が81.8%である。引き続き100%を目指したい。	B	・各学年に対応した進路ガイダンス、上級学校、企業訪問が実施できた。 ・3年生の進路決定率が81.8%である。引き続き100%を目指したい。	B	・特になし	道徳指導部
○広報の充実	○中学生、保護者に選ばれた効果的な広報の検討と実践	○公式Instagramのフォロー数を800人以上にする。 ★学校評価アンケートで中学生・保護者に選ばれた効果的な広報を検討し、実践しているという回答する保護者を75%以上にする。	・SNS、YouTube等での配信を定期的に実施する。 ・学校の魅力や在校生の声を適切に地域や中学生に伝える。 ・学校広報団(HP・パンフレット・青箱タイム)を充実させる。	B	・Instagramのフォロー数884人、学校により広報が実施された。 ・1・2年生のキャリア教育と進路指導の実施した。町誌に高校生が取材した記事掲載。	B	・Instagramのフォロー数884人、学校により広報が実施された。 ・1・2年生のキャリア教育と進路指導の実施した。町誌に高校生が取材した記事掲載。	B	・効果的な広報を実施しているという回答した生徒は53.3%、保護者は85%に達した。	事務長・主幹教諭・企画部・事務部